

海の恵みを未来へ～魚市場から考えるSDGs14～

学校名:長岡市立大河津小学校 名前:渡邊恋子

対象	2学年	単元名
科目	生活科	ギョギョ！魅力の再発見！五感で学ぼう！海の恵み
時間	3時間	目標
参考資料	『あおいほしのあおいうみ』 ほか	その1 自分たちの食事は、海の食材が使われていることや、海とのつながりに気付くことができる。 その2 身近な海を散策し、海にはいろいろなものが集まることに気付くことができる。 その3 海から食卓に届くまでの様子を知り、海の食材に興味を持つことができる。

期待できる学習効果

- ・その1 自分たちの生活と海洋問題のつながりを学ぶ。
- ・その2 実際の体験を通して、海のごみ問題やそれらを解決するために自分たちにできることを考える。
- ・その3 消費者としての意識が高まり、小さなアクションを起こせるようになる。

授業内容

その1 海の宝探しチャレンジ！（30分）

- ①本を使って、海と関連のある食材を全員で探す。
- ②給食の写真を使って、海と関連のある食材をグループごとに探す。
- ③どんな海のからとれた食材を食べたいかを想像し、対馬のページを見る(p.66、67→開く)
- ④地元の海(寺泊)はどうなっているか想像する。
(準備するもの:本、1週間分の給食の写真+献立を裏面に記入、付箋、海とその食材の関連性を表したイラスト(例:牛乳→牛→貝殻飼料))

その2 寺泊の海の現状を観察+ビーチコーミング(20分)

- ・寺泊の海岸を散策し、海の生物やごみ、貝殻などを見たり拾ったりする。
(準備するもの:拾ったものを入れる袋、防寒具、軍手)
→後日、海の環境と私たちの暮らしのつながりを考える。

その3 地元の魚市場見学(45分)

- ①寺泊の魚市場には、どんなものが売られているか、どんな売られ方をしているか食卓に届く前の様子を知る。
- ②魚の購入(お買い物体験)
- ③インタビューを行う
(準備するもの:財布、お金100円×5枚、クーラーバック、インタビュー用紙)
→各家庭で調理し、実際に味わう。→どんな料理を作ったか？食べてみてどうだったかを振り返る。

海の恵みを未来へ～魚市場から考えるSDGs14～

学校名:長岡市立大河津小学校 名前:渡邊 恋子

授業内容2

その4 ネイチャークラフト制作(45分)(ビーチコーミングで拾ったものを活用)

- ・寺泊の海岸を思い出しながらクラフト制作をする。海岸にあつていいなと感じたものと海岸にあつてざんねんだなと感じたもの、対馬と比べて感じたことなどをワークシートに記入する。
- ・海の「ごみ」だったものが新たな価値をもつことを体験する。
(準備するもの:ワークシート、シーグラス、ごみ、貝殻、強力マグネット、木製ピンチ、ガラスキャニスター、砂、接着材、グルーガン)

その5 まとめ&振り返り(20分)

- ・海に集まっているものはどこから来たのか考え、川から流れてきたり、海や海岸に直接捨てられたり、外国から流れてきたりしていることを知り、海を汚しているのは自分たちだったことに気付かせる。
- ・今までの自分を振り返りながら、これからどうしていきたいか考える。
(準備するもの:ワークシート、海のごみの票直・漂流のイラスト)

子どもたちの反応・感想

「海＝魚」「魚市場＝くさい」「魚＝苦手」というイメージをもっていた児童も、実際に海岸や魚市場を訪れたことにより、「魚市場は新鮮な魚が並び、活気がある場所!」「自分で選んだ魚はおいしい!」と価値観が変わる学びになった。

対馬のページ(p.66、67)を開いた瞬間、児童は大きく反応した。向こう岸のごみに着目したり、ごみの大きさや用途などに着目した児童もいた。

冬の海に行き、突風を受け、自分たちのプリントが飛ばされてしまいそうになったことから、「自分たちがぎゃくにごみを捨てに行ったようなものだ」と考えた児童や、海岸に貝殻やシーグラスなどが落ちていることを初めて知った児童もいた。

学習を終えて、毎日の給食では、給食をじっくりと観察し、海と関連している食材を探したり、残したり減らしたりすることが減った。牛乳を飲むために毎日使っているストローの個包装にも着目し、「この個包装がもったいない」と発言する児童もいた。

魚の名前に興味をもち、自分や家族のお気に入りの魚とその食べ方を伝え合う中で、もっと他の魚を食べてみたいと思う児童が増えた。

海の恵みを未来へ～魚市場から考えるSDGs14～

学校名:長岡市立大河津小学校 名前:渡邊 恋子



クラフト作品



給食